

銀行名	山口銀行
タイトル	山口県と創設した「投資ファンド」による成長企業の育成
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 山口県内においても、人口減少などによる産業の空洞化が懸念されており、商工業を中心に農林水産業も含めた産業の再生を図る必要がある。 そのためには、産業、地域を支える技術力のある中小企業や中核農業経営体の振興・育成が不可欠であるが、企業等にとっては、特に創業時や新事業参入時に多額の資金需要が発生するため、これに迅速に対応できる有効なツールとして、公的ファンドを創設した。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 25 年 4 月に、山口県（やまぐち産業振興財団）と連携し、総合的な産業力の強化を促進する目的で総額 10 億円の「やまぐち夢づくり産業支援ファンド」を創設し、成長マネーの提供を行っている。 [内訳] 山口銀行：660 百万円、山口県（やまぐち産業振興財団）：330 百万円、山口キャピタル：10 百万円 当該ファンドは新規創業や新事業展開等により、次世代産業や 6 次産業化に取り組む中小企業、農林漁業者を投資対象とし、技術力のある中小企業の成長や農商工連携に取り組む企業の育成を推進する。 <p>【取組みの効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記ファンドにおいて、平成 25 年度は 5 件 208.5 百万円の投資を行った（株式引受 1 件 28.5 百万円、普通社債引受 1 件 50 百万円、新株予約権付社債引受 3 件 130 百万円）。投資案件のうち、2 件 100 百万円については、新分野への参入を支援。 投資に併せて、融資を行う事例もあり、多面的な支援にも繋がっている。 平成 26 年度以降も、年間 6 件程度の投資を見込んでおり、引き続き山口県等と連携の上、企業の育成に努めていく。

銀行名	山口銀行
タイトル	産学官一体の異業種交流組織による専門機関を活用した経営課題の解決
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産学官一体の異業種交流組織であるヤマグチ・ベンチャー・フォーラムでは、当行取引先を中心とする会員に対し定期的に講演会等を開催している。会員からのアンケートにより、アジア圏への進出や技能実習生を受入れたいとの需要があったことから、海外をテーマとした講演会を開催することとした。 ・講演会の開催に際し、講師選定を行っていたところ、インドネシアの技能実習生の派遣を行っている専門機関（以下、B社）があり、面談の上、講師として選定した。 <p>ヤマグチ・ベンチャー・フォーラムは、山口銀行が、山口県、山口大学の協力を得て設立した組織で、会員相互の交流と研鑽を図り、併せて会員企業の繁栄と地域経済の健全な発展に寄与することを目的としている。（平成26年3月現在：会員180名）</p> <p>これまでに、販路拡大、技術展開、海外情報、補助金などをテーマとした講演会を企画し、最近5年間では37回開催している。</p> <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小型船舶等の造船業であるA社は、以前より若い安定した労働力の確保が課題であり、中国やベトナムからの実習生受入れを検討していた。A社は当フォーラム会員であり、講演会の参加募集に際し、A社の他、需要が見込める会員をリストアップし、事務局（当行地域振興部）より積極的に参加募集を行ったところA社の参加に至った。 ・A社は、講演会でB社に対し、インドネシア人との言葉の問題や風土、価値観等について具体的な相談を行った。 ・講演会後も、A社は、B社との面談を重ね、B社による実習生受入れ後のフォロー（週1回の教員OBによる日本語指導等）が手厚いことや、今後インドネシアでの事業拡大が見込まれることから、前向きに検討した。 <p>【取組みの効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年10月から毎年2人ずつ（1人当たり期間3年）インドネシアからの実習生受入れを決定。3ヶ月間本社工場で研修を受けた後、別工場にて小型船舶の組み立て作業を行う予定。 ・A社における経営課題の1つであった慢性的な若手人材不足の解決に貢献。今後、事業拡大による工場の建替えや実習生の受入れによる独身寮の建替えを検討しており、当該建設資金について当行での調達を予定している。

銀行名	山口銀行
タイトル	合同ビジネスマッチングフェア開催による取引先の販路拡大支援
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同ビジネスマッチングフェアは、取引先の販路拡大支援を目的として、平成 18 年度以降、毎年 1 回、当行・もみじ銀行・北九州銀行のグループ 3 行合同で開催している。 ・テーマや開催方法等については、前年までの開催内容を踏まえ、グループ 3 行の担当部署が連携・協議を重ねた上で、毎年決定している。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 25 年度についても、平成 26 年 2 月に北九州市にて開催した。8 回目となる今回、次の点を中心に取り組み、140 社を超える企業・団体が出展するとともに、海外バイヤー 6 社を含む約 70 社のバイヤーの招聘に成功。個別予約商談を中心に、活気あふれるフェア開催となった。 <ul style="list-style-type: none"> テーマの拡充と開催方法の見直し 例年、「食」中心のフェアであったが、「農業・食品・健康」の 3 つのテーマに拡充。また、「個別予約商談（＊）」中心にフェアを構成したため、成約件数の増加に繋がった。 ＊「個別予約商談」：出展者およびバイヤーから事前に商談希望先をヒアリングし、フェア当日、交渉せずに商談ができるようにセッティングしたもの。 対象エリアの拡大 <ul style="list-style-type: none"> 従前はグループ 3 行のある山口県、広島県、福岡県から出展者・バイヤーを募っていたが、今回は中国・四国・九州地方全域に対象エリアを拡大した結果、多数の商談の場を提供することができた。 他行への協力依頼 <ul style="list-style-type: none"> 対象エリアの拡大にあたり、当該エリアの他行に協力を要請。同意が得られた 4 行（阿波銀行、山陰合同銀行、四国銀行、鳥取銀行）に、出展者およびバイヤー招聘の面で協力を依頼したことで、出展者およびバイヤーが増加した。 海外バイヤーの招聘強化 <ul style="list-style-type: none"> 海外展開を図りたい取引先のために、当行国際部や日本貿易振興機構（ジェトロ）等を通じて 6 社の招聘に至った。 <p>【取組みの効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商談件数、成約件数ともに前年を上回り、過去最大規模のフェアとなった。参加者から概ね好評価を得ることができ、フェアの目的である販路拡大による取引先支援に大きく寄与した。 <ul style="list-style-type: none"> 来場者：約 830 名 商談件数：1,763 件（前年比 + 1,018 件、個別予約商談件数 627 件を含む） 成約件数：98 件（前年比 + 38 件） 継続商談件数：737 件（前年比 + 427 件）

銀行名	山口銀行
タイトル	畜産業者の6次産業化への取組に対するABL対応について
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 畜産業者のA社は、養豚、和牛生産、精肉卸売を主体とする業態で経営してきたが、飼料価格の高騰、枝肉価格の低迷という厳しい業界環境から、商品の付加価値、利益率向上等の経営改善に取り組む必要があった。 ・ 打開策として、加工品・惣菜工場を新設のうえ、生産力強化、新商品開発を行い、直売所による小売を展開する計画を立てた。 ・ 計画実施にあたっては、総合化事業計画認定（6次産業化認定）を国から受けており、地元雇用を支え、地域活性化に資する重要な取組であることから、当行としても、積極的な支援を行った。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 加工品・惣菜工場にかかる資金調達は、当行と山口県等との共同出資で創設した「やまぐち夢づくり産業支援ファンド」による投資50百万円や当行関連リース会社、政府系金融機関等からの調達で実施。 ・ 投資後には、加工品等の在庫、売掛金の増加、従業員・パートの新規雇用に伴う人件費負担増加が見込まれ、円滑な事業展開、資金繰りを支援する必要があったため、ハム等加工品および売掛金を担保としたABLにより、当座貸越極度を設定した。 <p>【取組みの効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A社にとって、6次産業化の取組は、売上高、および収益の増加が見込めるものであり、今回のABLにより、当座貸越極度を設定することで、A社の円滑な事業運営、資金繰り、および今後の事業展開において、支援することができた。

銀行名	山口銀行
タイトル	新規事業分野への参入支援
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A社は、半導体製造装置等の精密なハイテク部品の金属加工を得意とする産業用機械部品製造業者で、その技術力は定評があり、半導体製造装置メーカーを主要取引先としている一方で、半導体製造装置産業は、景気変動の影響を受けやすく、より安定的な経営基盤の構築を図るため、新しい事業分野への参入を模索していた。 ・ 精密金属加工技術を通じて、国内航空機装置部品メーカーとの取引があるA社は、経済産業省が日本の航空機産業を「次世代環境航空機の世界拠点」として、高付加価値化することを目標として掲げたことから、今後、航空機産業における受注量の拡大を見据え、本格参入を検討していた。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 航空機産業は名古屋地区に企業が多く集積していることから、当行と名古屋商工会議所が連携して開催した「山口・名古屋モノ作り企業交流商談会」への参加を斡旋。A社は、当該商談会に参加し、数社と面談することで航空機産業における一定の情報収集が図れ、航空機産業参入の一助となった。 ・ 「やまぐち産業振興財団」との連携により、「やまぎん地域企業助成基金」の助成企業に推薦。助成企業に決定したことで、航空機産業への進出が各分野から注目され、経済産業省による「先端設備等投資促進事業費補助金」の支給も決まり、新工場設立が加速した。 <p>【取組みの効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 航空機産業への本格参入に伴う機械設備等導入資金に対して、当行にて融資取組を行った。当該融資に際しては、新たな地元雇用が発生する予定であることから、厚生労働省による「戦略産業雇用創造プロジェクト関連融資利子補給制度」をA社に紹介し申請手続きを支援。同制度の適用が決定し、同社にとってもコストを抑えた資金調達ができた。 ・ 当行行内で実施している企業診断力養成研修の工場診断実習先企業として、研修（約2週間：14名）を受入れいただき、当行とA社との相互理解、人的交流が深まった。

銀行名	山口銀行
タイトル	市の土地を活用した太陽光発電事業にかかる S P C への融資取組
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P F I 事業等のコンサルタントを行っている A 社より、市の所有敷地において、太陽光発電事業を行う計画に対して、資金調達の打診を受けた。 ・ 本計画の事業体は、A 社が中心となって法人 5 社の出資によって設立する S P C であり、融資取組に際しては、保証条件の付かないノンリコースローンでの要請を受けた。 ・ 再生可能エネルギーの固定価格買取制度の適用により、一定の収支が見込めるプロジェクトではあるが、融資期間が 15 年と長期であり、様々なリスクが想定される中、ノンリコースローンで対応するためには、相応の保全策を検討する必要があった。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ノンリコースローンでの取組みを希望していたことから、プロジェクトファイナンスに準じた取扱いとし、別途、融資契約書を作成し、プロジェクトキャッシュフロー充当規定を盛り込むことで、当行で資金管理できる仕組みを設定。 ・ その他、事業に着目した保全策として、太陽光パネル、および電力会社からの売電債権に譲渡担保を設定。また、事業継続を担保するため、維持管理業務について、委託業者に対して地位譲渡予約を行うことで、S P C の経営に支障が起きた場合でも、事業継続できる体制とした。 <p>【取引先にとっての効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保証条件のないノンリコースローンでの取組提案を行ったことで、当社との交渉もスムーズに進み、新規融資の取組みに至った。 ・ A 社は、現在、別途、S P C を設立し、新たな太陽光発電事業を計画しており、こちらも当行に資金調達の打診があり、同様のスキームで取組む予定。 ・ 本件取組により、太陽光発電事業における一定の融資スキームの確立が図れ、これを活用することで、他の太陽光発電案件の取組みにも繋がった。

銀行名	山口銀行
タイトル	海外拠点を活用した取引先の海外現地子会社設立支援
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中堅食品メーカーのA社は、日本の人口減少などで市場縮小が見込まれる中、海外での販売を強化し売上増強を図る方針をたてた。 ・ 特に中国ではA社商品に対する需要が見込めるため、販路拡大と製造原価削減を目的に、中国・青島市に海外現地法人の設立と現地工場建設を計画した。 ・ 当行はお客様の貿易や投資支援を目的としてアジアに特化した拠点展開を行っており、A社に対しても定期的な海外現地情報の提供を行っていたところ、本件海外進出計画について相談を受けた。 <p>※海外拠点～韓国：釜山支店、中国：青島・大連支店、香港駐在員事務所</p> <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A社の中国進出計画を受け、速やかに国際部に情報を連携、青島支店にて収集した現地投資環境等の情報を提供した。 ・ また、A社の中国訪問時には、青島支店が会社設立や工場稼働後に必要な政府系機関や会計士事務所等の現地専門機関の紹介を行った。 ・ 中国現地法人の工場設備機械について、当初日本のリース会社にてリース取組予定であったが、現地外貨管理局からリース取組額が基準未滿で取組みの対象とならないとの見解が出され、急遽、青島支店での融資対応を検討することとなった。 ・ 国際部からも海外店勤務経験者がA社を訪問し、現地資金調達における中国現地規制（資本金払込、親子ローンに係る規制等）について説明を行い、現地法人設立をサポートした。 <p>【取組みの効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A社中国現地法人の工場機械設備資金は、青島支店での融資取組となり、現地法人のスムーズな設立、新工場竣工となった。 ・ 国内取引店、国際部、海外支店（青島支店）が連携を取り、中国に拠点を持つ強みを活かし、A社への現地情報の提供、金融面でのアドバイスを行ったことでA社とのリレーションを強化することができた。

銀行名	山口銀行
タイトル	金融機関調整機能の提供により支援を取組んだ事例
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A社は、当地区を営業基盤とする代表的な小売業で、当行他複数の金融機関との取引を行っていた。 ・ 中期経営計画を策定し経営改善を図った結果、売上は微減ながら収支・財務内容は改善されてきた。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A社は次期中期経営計画、返済計画を策定し、主要行に協力を要請した。 ・ 当行グループは理解を示したものの、返済計画案に対し一部主要行の理解が得られず、次期中期経営計画はスタートできない状況となった。 ・ A社は、取引行の協力の下、次期中期経営計画を円滑にスタートし遂行することが最重要課題と判断し、下位行を含めた取引行の再編を行うこととし、当行グループに対し銀行借入の組替えと一時肩代りの申し出を行った。 ・ 当行グループは、次期中期経営計画の円滑なスタートがA社の業績向上と借入金の圧縮に必要と判断し、再編までのつなぎ資金を実行した後、銀行再編案に従って融資の組替えを行った。 <p>【取組みの効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A社の次期中期経営計画は円滑にスタートし本業に集中できる体制が整った。業績は計画を上回る水準で推移し借入金返済も順調に進んでいる。 ・ 当行グループはメインとして、A社の定期的なモニタリングを通じきめ細かい支援を継続しており、強い協力体制が確保されている。

銀行名	山口銀行
タイトル	グループ銀行の連携・協力体制による経営改善の事例
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A社は、県内で4ヶ所の病院を運営し、知名度は高い。 ・ これまで順調だった約定弁済に突如延滞が発生。代表者は資金管理が出来ていなかったことを深く反省し、状況解明・改善に向けての強い意思を持ち、取引金融機関の協力のもと資金を何とか繰り回したいという真摯な姿勢で各取引金融機関に支援を要請した。 ・ A社は、メイン行に対し幾度となく計画策定や金融機関調整の働きかけを行ったが、具体的な進捗はなかった。このためA社は当行に相談を持ちかけるようになり、当行主導による事業再生を進めていくようになった。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 信頼できる会計事務所や顧問弁護士との契約が必要であったことから、弁護士、税理士、司法書士等を擁する、当行グループ銀行の取引先の会計事務所を紹介し、デューデリジェンスを実施、実態把握と再建の可能性について検証し、経営再建計画を策定した。 ・ 会計事務所の指導のもと、決裁権限や社内規定の整備による経営管理体制の確立を図った。 ・ 債務圧縮を目的とした資産売却を行った（売却先は当行取引先）。 ・ スポンサーを模索する中で、当行取引先からの申し入れに対し適切な情報提供を行い、最終的に当該スポンサーからの融資により借入金を完済した。 ・ 預金取引および融資取引を集約することで、資金管理の効率化を図った。 <p>【取組みの効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 取引行集約により資金を集中したことで、A社のみならず当行も業況や資金繰りの確認が継続的かつリアルタイムで行える体制が確立され、あわせて会計事務所による適時適切なサポートが受けられる体制となった。 ・ スポンサーからの融資の返済を完了し、A社の業況は、多額のキャッシュフローを有するまで順調に改善している。

銀行名	山口銀行
タイトル	コンサルティング機能の発揮に向けた人材育成
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中期経営計画に掲げる「お客さまから頼られるコンサルティング機能の発揮」を現場実践できる人材を育成し、多様化するお客さまニーズに対応する。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門分野（M&A、事業再生、国際営業等）の知識習熟や実践力の向上をねらいとして、日本M&Aセンターなど外部機関への人材派遣を行った。派遣後は、取引先支援に資する専門部署へ配置し、前述のスキルを活用している。 ・休日セミナーにおいて「M&Aのための実務と税務講座」などコンサルティング能力の向上に役立つ講座を実施した他、中小企業診断士や1級FP技能士等、コンサルティング能力の向上に役立つ資格の取得を奨励しており、休日セミナーで対策研修を実施する等、資格取得に向けたサポートも実施している。 ・取引先企業の経営上の課題と実態を正しく把握し、適切なアドバイスや情報提供ができる能力を習得する行内研修「企業診断力養成講座」を実施した。 本プログラムは、取引先実習（無料経営診断）を含む構成としており、プロの経営コンサルタントによる直接指導により、実習先への良質な提案や受講者の実践力向上に繋がっている。 ・また、当該プログラムの受講者は所属部店や独身寮での勉強会の開催や所属部店取引先での工場見学実施等、習得スキルを活かした行員のスキルアップに注力しており、加えて、グループ会社であるワイエムコンサルティングを活用して、取引先企業の経営課題解決（経営計画策定、人事制度設計等）に取り組んでいる。 ・行内研修「業種別企業研修」では、従来の医療・介護分野に加えて、製造業を取り上げた。研修ではスクーリング形式の講義だけでなく、生産管理の視点からメーカーでの工場見学を取り入れる等、より実践的・具体的なカリキュラムを構成のうえ実施した。 ・地元企業の海外展開に係るコンサルティング能力を強化するため、自行の中国国内支店やシンガポールの邦銀拠点にトレーニーを派遣し、地元企業の海外展開支援に向けた人材の育成に取り組んだ。 <p>【取組みの効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修受講者について、取引先企業の成長を支援するため、定性面の分析による実態把握や商流理解に基づく将来分析をベースとした提案を行うなど行動変容が確認できた。 ・海外トレーニーは研修終了後、国際部や総合外為店等に勤務し、情報提供等地域企業の海外展開支援に取り組んでいる。

銀行名	山口銀行
タイトル	社会貢献への取組み
取組み内容	<p>1. 青少年育成支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 24 年度より取組開始した、地元の高校生を対象に金融経済教育を通じた地域貢献活動の一環である第 8 回全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」の山口大会を、平成 25 年度も開催した。(継続取組み) ・平成 24 年度より取組開始した、劇団四季(四季株式会社)が演劇を通じて子供たちの健全な育成に資することを目的に行っている大型児童招待事業「こころの劇場」山口公演への協賛を、平成 25 年度も行った。(継続取組み) ・やまぎん史料館を活用し、小学生夏休みセミナーや各種講演会などの開催を通じ、地域の皆様の交流・憩い・学びの場を引続き提供した。(継続取組み) <p>2. 地域と海外の交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和 61 年から実施している地元大学の聴講留学生支援を平成 25 年度も中国・タイ・トルコの留学生受入(受入累計 146 名)で実施した。(継続取組み) ・平成 4 年から地元下関市と友好都市の締結をしている中国・青島市において、「山口銀行杯日本語弁論大会」を継続開催しており、今年で 12 回目となった。(継続取組み) ・平成 5 年から当行青島支店がある中国・青島市の上清路小学校、また平成 10 年から大連支店がある中国・大連市の周水子小学校より、両校の教師と「小さな親切」運動の善行児童を下関に招聘し、地元下関市の小学校との交流支援を行っている。(継続取組み) ・上記の国際交流活動が認められ、日中両国の友好親善や相互理解に長年貢献したとして、平成 25 年度の外務大臣表彰を受賞した。 <p>3. スポーツ・文化支援活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 23 年度に山口県で開催された「山口国体・山口大会」で高まった競技水準を維持・向上させ、スポーツ振興による豊かな社会作りの一助とするため、平成 25 年度も山口県体育協会への寄付を実施した。(継続取組み) ・平成 24 年度と同様に、下関海響マラソンへの協賛、YMFG レディースサッカー大会・やまぎんカップ女子サッカー大会・やまぎんコンサートを開催。(継続取組み) <p>4. 森林整備活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 23 年度に取組開始した森林整備活動「未来へつなげよう『やまぎんの森』」に継続取組。(継続取組み) <p>5. 節電・CO²削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 24 年度同様、クールビズ・ウォームビズ、毎月 1 回の一斉消灯日・ノーマイカーデーなどを継続実施。(継続取組み)